

船場公園周辺地区 都市再生整備計画 事後評価の概要

1. 事後評価の概要	1
2. 実施事業の概要	2
3. まちづくりの数値目標、実施過程の評価	8
4. 効果発現要因の整理	9
5. 今後のまちづくり方策の検討	11

令和7年2月

留萌市地域振興部経済観光課

1. 事後評価の概要

目的と位置づけ

事後評価とは、都市再生整備計画事業において、交付期間の終了時に留萌市が設定した数値目標の達成状況及びその効果要因等を整理し、その後のまちづくりに活かすための作業であり、事業の成果を住民にわかりやすく説明することを目的とします。

内容

【まちづくりの数値目標、実施過程の評価】

計画段階に設定した数値目標の達成状況、実施過程での取組を確認します。

【効果発現要因の整理】

数値目標の達成に関する効果要因を整理します。

【今後のまちづくりの検討】

数値目標の達成状況やまちの課題の変化を踏まえ、まちづくりの方策を検討します。

2. 実施事業の概要

都市再生整備計画における実施事業

ハード事業

道路	市道早道通り（車道大型標識）	: R 3～R 4 年度
	市道早道通り（バスレーン）	: R 4～R 5 年度
	市道早道通り（歩道部バリアフリー化）	: R 4～R 5 年度
	市道早道通り（車道部右折レーンカラー舗装）	: R 4 年度
	市道東岸通り（車道部右折レーンカラー舗装）	: R 4 年度
地域生活基盤施設	第2駐車場	: R 4～R 5 年度
	案内看板	: R 3 年度
高次都市施設	観光交流センター（屋内交流・遊戯施設）	: R 3 年度
	子育て世代活動支援センター（屋内交流・遊戯施設）	: R 3 年度

ソフト事業

アンテナ型チャレンジ広場開設事業	: R 3～R 5 年度
地域ブランド創出事業	: R 3～R 5 年度
コンシェルジュ機能整備事業	: R 3～R 4 年度
子ども体験活動事業	: R 3～R 5 年度
事業効果分析調査事業	: R 6 年度

都市再生整備計画と関連して実施した事業

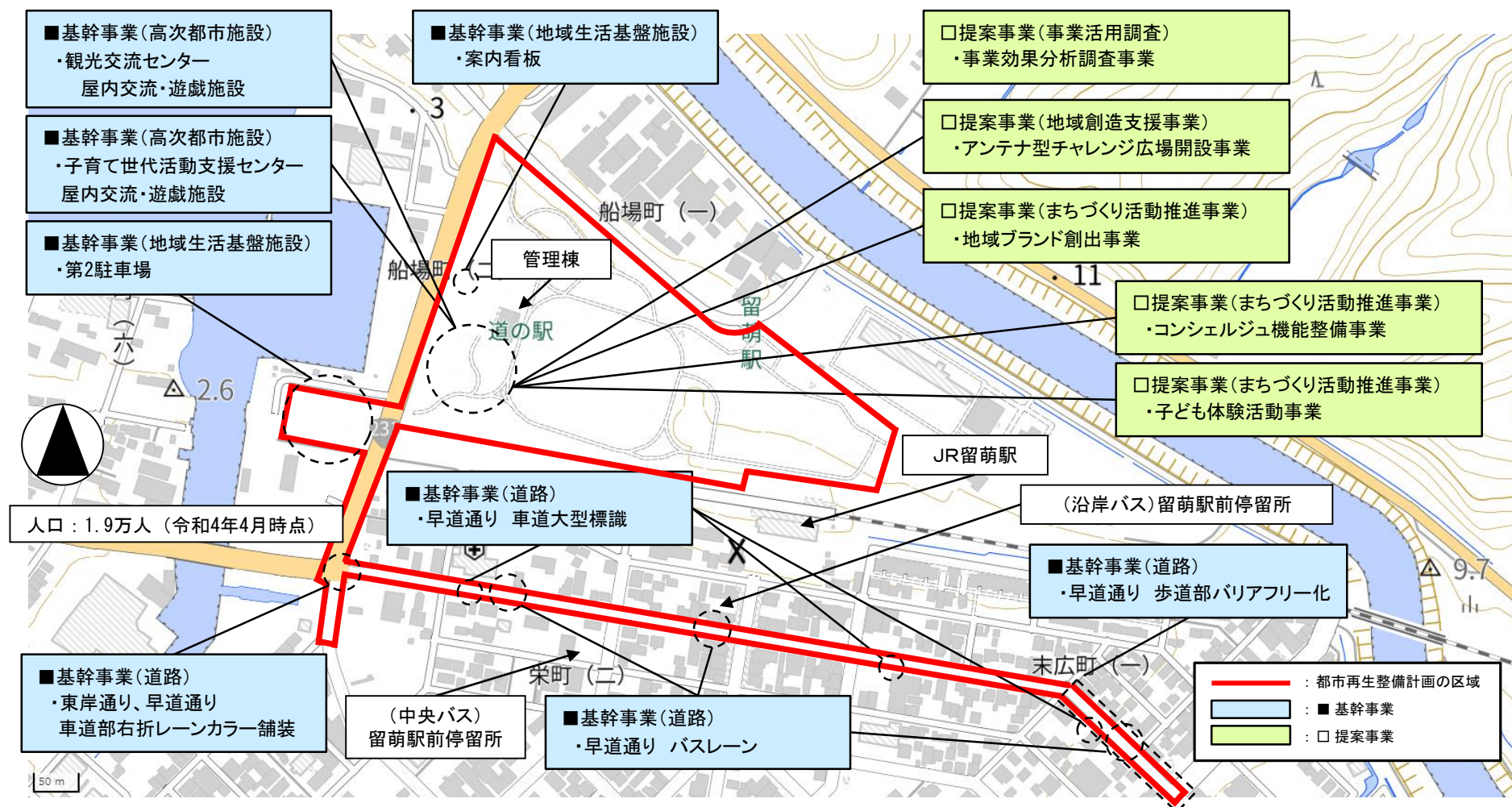
道の駅るもい駐車場拡張事業	: R 2～R 3 年度
道の駅るもい防災倉庫設置事業	: R 2～R 3 年度

2. 実施事業の概要

◆事業概要: 留萌地域の魅力を高め広める広域交流拠点の形成による地域の活性化を目的に、道の駅るもいとして登録された船場公園周辺地区において、地域住民と観光客の交流の場となる拠点施設やより快適な利用環境を整備するとともに、情報発信などソフト事業を展開する。

◆事業主体: 留萌市 ◆面積: 10ha ◆交付期間: 令和3年度～令和6年度

◆全体事業費: 772百万円 ◆交付対象事業費: 658.5百万円(国費: 263.3百万円) ◆国費率: 40%



2. 実施事業の概要 基幹事業：道路



2. 実施事業の概要 基幹事業 地域生活基盤施設・高次都市施設



2. 実施事業の概要 提案事業（地域創造支援事業・まちづくり活動推進事業）

□提案事業（地域創造支援事業） ・アンテナ型チャレンジ広場開設事業 （令和3年度～令和5年度）

R 3 : 1,861千円
R 4 : 1,861千円
R 5 : 1,861千円
合計 : 5,583千円

・チャレンジショップ

道産木材を使った仮設施設（チャレンジショップ）を設置し、地場産品や農水産品等を取り扱い、特産品の魅力を発信するアンテナショップとして、市内事業者を対象に、将来の起業や新商品をPRする場として、道の駅を一緒に盛り上げる環境を整備する。

・モデューロ

移動型の多目的施設で、移住・支援コーディネート機能を有するコワーキングスペースを設けるほか、留萌市のコミュニティ放送局のサテライトスタジオの設置等、留萌の観光や防災に関する情報集積及び情報発信の拠点として整備する。



□提案事業（まちづくり活動推進事業） ・地域ブランド創出事業

留萌管内の地域資源・文化、新たな観光体験メニューの発掘を行うとともに、道の駅オリジナル商品の開発や、回遊性を持ちながら街なかや管内への誘導に繋げる手法、地域ブランドのマネジメント方法について検討する。

令和3年度

◆道の駅アンテナショップ新商品開発業務 5,27千円

（NPO法人留萌観光協会）

目的：道の駅アンテナショップにおける新商品の開発を支援し、道の駅への来場者の増加及び満足度の向上を図る。

・道の駅アンテナショップにおいて販売する商品を新たに開発

→糠にしんのフリーズドライフレークの開発

・開発した商品の認知度向上に向けた取組

◆道の駅新商品開発支援業務 473千円

（DESIGN STUDIO Aim）

目的：道の駅るもいチャレンジショップの出店者が積極的に挑戦できる環境を整備し、道の駅への来場者の増加及び満足度の向上を図る。

実施内容

①道の駅チャレンジショップ出店者に対する新商品開発費用の支援

②道の駅チャレンジショップ利用促進のための割引クーポン券の発行及び管理、周知

令和4年度

◆道の駅アンテナショップ新商品開発業務 500千円

（NPO法人留萌観光協会）

目的：道の駅アンテナショップにおける新商品の開発を支援し、道の駅への来場者の増加及び満足度の向上を図る。

・留萌の小麦ルルロツソを使用したデニッシュ生地の焼き菓子を開発

・留萌高校専科生徒が取り組む研究課題から生まれたアイデアを商品化

◆道の駅カフェ新商品開発業務 500千円

（（有）ルモンド）

目的：道の駅カフェにおける新商品の開発を支援し、道の駅への来場者の増加及び満足度の向上を図る。

・道の駅カフェにおいて販売する商品を新たに開発

→「世界三大波濤るもい」のイメージに注目した新たなブランドを開発

・開発した商品の認知度向上に向けた取組

令和5年度

◆道の駅新商品等開発支援業務 1,000千円

（NPO法人留萌観光協会）

目的：道の駅るもいにおける新たな地域ブランドを創出し、道の駅るもいを拠点として市民及び屋内外の観光客など交流人口拡大を図る。

・留萌管内におけるアウトドア商品（体験メニュー）調査
→トレッキング、サイクリング、パドルスポーツ、自然観察、スノーシュー、ロゲイニング、子ども向け体験プログラム

・アウトドア商品紹介ホームページの開設

・ホームページの多言語化対応

・デジタル化の検討

・アウトドア観光窓口対応職員のスキルアップ

コンシェルジュ研修 4回実施

6/28、9/11、1/8、2/5

2. 実施事業の概要 提案事業（まちづくり活動推進事業・事業活用調査）

□提案事業(まちづくり活動推進事業) ・コンシェルジュ機能整備事業

道の駅を訪れる利用者に対し「おもてなしの心」をもって対応する観光コンシェルジュの養成やホームページ等による情報発信等、道の駅の「知る」機能を充実させることにより、道の駅を起点とした交流人口の拡大や市街地への誘客促進に取り組む。

令和3年度

- ◆道の駅コンシェルジュ機能整備事業 3,000千円
(株式会社エフエムもえる)
- ・道の駅観光コンシェルジュ養成研修 7回実施
11/30 12/7 12/21 2/22 3/8 3/15 3/22
- ・道の駅観光コンシェルジュ養成研修OJT 3回実施
12/21 ニューホワイトハウス
3/7 ビジネスホテルR-inn・ホテルノースアイ
- ・道の駅のもい公式HPの管理・運営
- ・プロモーション動画の作成 6本

令和4年度

- ◆道の駅コンシェルジュ機能整備事業 1,911千円
(株式会社エフエムもえる)
- ・10/30 可能性を探る！モルック体験会(参加者9名、運営者7名)
- ・11/17 南富良野町視察(オブザーバー含め10名参加)
- ・1/27 視座を変える！持続可能な留萌観光セミナー(約10名参加)
- ・道の駅のもい公式HPのリニューアル・管理・運営
- ・紙媒体の情報発信(JP01)
- ◆ホームページ観光情報検索向上業務 891千円
(株)JOYボイス
- 目的: 道の駅のもい屋内交流・遊戯施設及びチャレンジショップなどの付帯施設において、顧客潜在ニーズ発掘プラットフォーム「JOYボイス」を活用して顧客のニーズを分析し、施設の集客に向けた動画作成による情報発信などニーズにあったPRをし、ホームページによる観光情報の検索向上を図る。
- ・Googleマイビジネスのページ精査、アドバイザリー
- ・投稿作成、動画編集(商品投稿13本、動画投稿6本)
- ◆デジタルサイネージ案内板観光動画広告掲出事業 133千円(表示灯株式会社)
- 目的: 情報発信ツールとして、デジタルサイネージ設置による地域情報の配信環境を整備する。
- ・道の駅のもい屋内交流・遊戯施設「ちやいるも」において、デジタルサイネージを設置し、周辺地図や観光情報等を掲示

□提案事業(まちづくり活動推進事業) ・子ども体験活動事業

地域事業者や市民団体等と連携しながら、交流遊戯施設、公園施設をはじめ、地域資源を活用した、子どもの体験学校、ものづくりイベント等を行い、市民力を活かした地域で持続的な「学び、遊び」の環境を構築する。
市内の小学生を対象に、留萌の自然体験や仕事を子どもたちが体験し、海や山などをフィールドに自然体験をしながら留萌地域の自然環境や職業の魅力を学ぶことができる体験プログラム、「ルルキッザ」を実施した。

令和3年度

- 1,000千円(株式会社コササル)
- ①8/7 ルルキッザ夏休み編 密着！漁師のおしごと体験(参加19名)
- ②1/15 ルルキッザ冬休み編 るもいの魅力を発信！YouTuber体験(参加11名)
- ③3/26 ルルキッザ春休み編 まだまだ楽しむ♪留萌の雪あそび 雪上バナナボート体験(参加14名)

令和4年度

- 1,000千円(株式会社コササル)
- ①8/15 ルルキッザ夏休み編 るもいダムでSUP体験(参加17名)
- 1/14 ルルキッザ冬休み編 るもいスノーシュー探検！(申込み1名で中止)
- ②2/12 ルルキッザ冬編 プチ☆パティシエ体験(参加51名)
- ③3/25 ルルキッザ春休み編 雪上バナナボート体験＆雪あそび(参加8名)

令和5年度

- 1,000千円(株式会社コササル)
- ①8/14 ルルキッザ夏休み編 るもいダムでSUP体験(参加15名)
- ②1/14 ルルキッザ冬休み編 プチ☆パティシエ体験(参加40名)
- ③3/27 ルルキッザ春休み編 留萌自衛隊と雪の宝さがし大作戦!!(参加29名)

□提案事業(事業活用調査) ・事業効果分析調査事業

令和6年度

- 3,300千円(予算額)
- 本計画の目標を定量化する指標について、関連データを収集して効果の分析を行い、その検討内容を、継続したまちづくり活動に活かす。

3. まちづくりの数値目標、実施過程の評価

都市再生整備計画のまちづくりの目標

大目標：留萌地域の魅力を高め広める広域交流拠点の形成による地域の活性化

目標1：多様な来訪者の受け入れとまちなかへの誘導

目標2：地域ブランドの構築による地域の稼ぎと経済活動の活性化

目標3：子育て世帯など若い世代が集う賑わいあふれる拠点づくり

数値目標と達成状況

【指標1】観光客の入込数

従前値:280千人(H30) ⇒ 目標値:362千人(R6) ⇒ 現在値:449千人(R5)【達成】

【指標2】市民の特産品に対する評価（市民実感度）

従前値:2.146(R1) ⇒ 目標値:2.500(R6) ⇒ 現在値:2.368 (R6)【未達成】

【指標3】公園の整備・緑化に対する評価（市民実感度）

従前値:2.188(R1) ⇒ 目標値:2.500(R6) ⇒ 現在値:2.197 (R6)【未達成】

実施過程における取組と今後の対応方針等

官民連携による取組

- ・コンシェルジュ機能整備事業の実施
- ・子ども体験活動事業の実施

持続的なまちづくり体制の構築

- ・アンテナ型チャレンジ広場開設事業の実施
- ・地域ブランド創出事業の実施

▶ 今後も市民や来訪者の意見を聞いて、引き続き官民連携によるおもてなしや情報発信に取り組むとともに、事業の継続を図る。

▶ 活動の場は市が整備したが、その場を活用した活動展開は民間事業者主体で継続を図る。

4. 効果発現要因の整理

数値目標を達成した指標

【指標1】観光客の入込数

令和2年3月に船場公園全体が「道の駅るもい」として登録され、さらに令和4年4月には、「ちゃいるも（高次都市施設 観光交流センター及び子育て世代活動支援センター）」がオープン。

また、深川市と留萌市を結ぶ自動車専用道路、深川・留萌自動車道が令和2年3月に留萌ICまで全線開通し、市外からのアクセス環境が大きく向上したことなどもあり、コロナ禍の逆風の中、留萌市への来訪者は大きく増加した。

◆今後の展開

今後は観光体験メニューやアウトドア体験メニューの開発など、来訪者のみならず市民利用も含めて、更なる交流人口の拡大を図る。

4. 効果発現要因の整理

数値目標を達成できなかった指標

【指標2】市民の特産品に対する評価

道の駅るもいの開業により、特産品の販売が伸びるなど、市民の実感としてもある程度の効果は認められたと考えるが、市民全体にその意識が高まるまでには至らなかったと考える。

◆改善方針

今後は、地場産品の更なる情報発信や消費拡大に向けた活動展開を図るとともに、市民も巻き込んだ新商品開発など地域が一体となって魅力ある特産品を創出していく体制づくりを図る。

【指標3】公園の整備・緑化に対する評価

船場公園の市民利用の拡大が思ったほど図られなかったことが要因として考えられる。一方で、指標の市民まちづくりアンケートの「公園の整備・緑化の推進への取組みが十分行われている」であるが、市民に身近な公園の整備・緑化に対する回答要素が大きかったと想定される。

◆改善方針

モンベルアウトドアヴィレッジるもいの整備などにより、モルックなどの新しいスポーツやアウトドア体験など船場公園の魅力を高め、市民の利用機会をさらに高める取組を推進する。

5. 今後のまちづくり方策の検討

事業実施によるまちの課題の変化

事業前の課題①

道路交通の結節点として、多様な来訪客ニーズに対応した交通環境を創出し、まちなかに誘導することが必要である。

→課題の改善状況：深川自動車道の留萌ICまでの延伸、道の駅やちゃいるもの開業、駐車場の拡張整備など、交通結節点として多様な来訪客ニーズに対応した交通環境は創出できた。

→残された課題：船場公園への集客は出来ているが、それがいわゆる留萌の中心市街地、まちなかに誘導できているか、については課題として残っている。

事業前の課題②

留萌管内の玄関口として、留萌の地域資源を活用した魅力的なブランドを構築し、新たな集客機能と通年での観光利用や、情報発信する広域交流拠点を創出することが必要である。

→課題の改善状況：道の駅やちゃいるもの開業、駐車場の拡張整備など、広域交流拠点としての機能を果たすことができた。

→残された課題：通年での観光利用については、多雪地域である本市の特性上、冬期のアクセスに難があることから、課題として残っている。

事業前の課題③

公園施設の活用と一体的に、子どもの遊び場づくりや、子育て世帯を支援する環境を整備し、若い世代や親子、家族をターゲットとした観光客等の受入増加につなげることが必要である。

→課題の改善状況：ちゃいるもの開業により、子育て世代を中心とした受入増加は図られている。

→残された課題：ちゃいるもと公園施設の一体的な活用については、課題として残っている。

5. 今後のまちづくり方策の検討

今後のまちづくりの方策の検討

道の駅るもいの更なる魅力の向上

モンベルアウトドアヴィレッジるもいの展開により、道の駅るもいの集客能力を高めるとともに、アウトドア体験などの新たな観光商品の開発など、その効果を管内全体に波及させていく。

- 想定される事業
- ・道の駅るもい及び周辺エリアの整備
 - ・体験型観光商品の開発

道の駅るもいの市民利用の促進

船場公園を活用したアウトドアやモルック体験、フォトロゲイニングなど定期的なイベントの開催により、市民が日常的に楽しめるメニューを提供する。

- 想定される事業
- ・定期的なイベント開催

道の駅るもいからまちなかへの誘導方策

観光入込客数は着実に増加しており、道の駅るもいの集客効果が大きいものと考えられる。道の駅にきた来訪者をまちなかに誘導し、地域全体の活性化に繋げていく。

- 想定される事業
- ・旧留萌駅前へのアクセス通路の整備
 - ・スタンプラリー、フォトロゲイニングなど道の駅とまちなかを回遊させるイベントの開催

旧留萌駅前周辺地区において検討が進められている新交流複合施設整備と道の駅るもいは一体的なまちづくりを展開していくことが求められる。

深川・留萌自動車道の全線開通、道の駅の開業、JR留萌線の廃止など留萌市を取り巻く社会経済環境、都市構造は大きく変動している。都市構造の変化を踏まえ、新たなまちづくりに向けてさまざまに展開する事業を俯瞰的に位置づけ、事業効果を最大限に活かす新たなマスタープランの作成が必要である。